

の高温で低比重となり、生食用は市場価格の低迷が長引き、収入面で厳しい年となった。

当期末処分剰余金は12億9,156万円。

篠原組合長は「厳しい気象条件の中、これだけの数字を残せたのも組合員の努力と技術のたまもの。一層の所得向上に取り組む」と述べた。

取扱高 過去最高133億円 好天で農産部門良好 J A 本別町 2020年6月12日

【本別】J A 本別町（佐野政利組合長、正組合員488人）は11日、農協会館で通常総会を開いた。2019年度の農産、畜産両部門の取扱高は前年度比5.7%増の133億6,200万円と過去最高を記録した。

農産部門は秋以降の好天でジャガイモやビートが収量を確保し、飼料作物も収量、品質ともに良好。小麦は平年以上、豆類は平年並みだったが、価格が高く増収となり、取扱高は15.9%増の54億2,100万円となった。畜産部門（酪農・畜産）は生乳取扱量が5.1%増と堅調だったが、全体では0.3%減の79億4,100万円にとどまった。

新型コロナウイルスの感染対策のため、総会は書面議決を中心に行われた。佐野組合長は「総取扱高が過去最高という結果は、組合員の不断の努力のおかげ。今年度は新型コロナの予期しない展開が予想されるが、全力で対策に取り組んでいきたい」とあいさつした。

農業総生産額 過去最高214億円 J A 帯広かわにし 2020年6月12日

J A 帯広かわにし（有塚利宣組合長、正組合員760人）の通常総代会が12日午前、帯広市内の同J A 本所で開かれた。2019年度の農業総生産額は6月以降の天候に恵まれたことなどから、前年度比6.5%増の214億1,095万円で、過去最高を記録した。

經常利益は8億5,461万円、当期末処分剰余金は9億7,768万円を計上した。

農作物は昨年度、少雪による土壌凍結や5月の高温干ばつの影響が出た。ただその後は天候に恵まれ、収穫作業も順調に推移。全般的に平年作を上回った。

部門別では小麦が47%増の37億4,595万円、ビートが0.1%減の22億256万円、ジャガイモが6.5%増の22億5,306万円、豆類が13.3%増の17億5,317万円など。

生乳販売は良質な粗飼料の確保や規模拡大で4.6%増の29億4,452万円。畜産合計は1.9%増の82億6,913万円。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため書面中心に議決し、総代184人のうち179人（書面議決含む）が出席。有塚組合長は生産基盤強化の重要性に触れ、「農業経営の健全な確立、自給率向上の求めに対し、あらゆる対応を尽くしてさらなる生産性の向上に努めたい」とあいさつした。

総生産額4.4%増の36億円 ブロッコリーは過去最高6億円 J A 木野 2020年6月16日

【音更】J A 木野（清都善章組合長、正組合員159人）の通常総会が15日、同J A で開かれた。2019年度の農産・青果・畜産の総生産額（交付金、補給金など含む）は、前年度比4.4%増の36億93万円だった。

青果は相場価格の低迷に伴って野菜全般で厳しい年となり、5.6%減の13億5,087万円。一方、主力品目のブロッコリーは順調な生育に支えられて過去最高の6億1,130万円、23万6,000ケースの出荷実績を記録した。

農産物は畑作4品などが高収量となり、11.7%増の10億5,155万円。酪農・畜産は新規法人1戸の生乳受け入れて出荷量が22%増え、24.7%増の4億663万円だった。

事業総利益は8億281万円、税引き後の当期剰余金を前期繰越剰余金を加えた当期末処分剰余金は1億8,096万円だった。

子会社のハピオについては、燃料事業がスーパーの改修リニューアルに伴う1カ月間の休業で売り上げが減少したものの、生活事業がハピオブランドのオリジナル商品のPRやキャッシュレス化対応など販売強化に努めたことで0.7%増の26億9,776万円となった。

総会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、書面議決を中心で開催。清都組合長は「今年度は関係部署と連携しながら各施設の整備計画、検討を進めていく」と述べた。